

2 シイタケ品種選抜試験

清水 高志

I はじめに

シイタケの種菌は年々改良された新品種が市販されている。しかし、すべてが現地に適応性が高い品種とは考えられない。そこで、市販前の品種を供試し、これら品種が都下の自然条件並びに生産経営上の諸条件に対する適合性を検討し、シイタケ栽培の安定と生産性の向上に資するための試験研究成果を報告する。

II 試験方法

従来、都下で栽培されている系統（森、明治、秋山）のなかから、同一品種を露地栽培及び不時栽培に供試し、露地栽培では植菌後5年間ホダ木を自然林内に放置し、不時栽培では、夏秋期及び冬期に植菌後2～3年目のホダ木について4～8回転して、それぞれ子実体の発生状態を検討し、発生量、発生型、形状、品質等を調査した。

ここでは、露地栽培に供試した昭和55年植菌の5品種並びに不時栽培に供試した昭和57年植菌の8品種について、その試験成績を報告する。

1. 露地栽培試験

(1) ホダ場の概況

所在地：西多摩郡五日市町戸倉928

方位：南

傾斜：緩

海拔高：230m

土壌：BD埴質

PH：5.7

樹種：スギ

樹令：22年生

庇陰度：80%

地表植物：リュウノヒゲ、イノコヅチ、ドクダミ、カラムシ、ヤブコウジ等

(2) 供試品種：6L4、7H1、7H2、505、A75

(3) 供試原木：コナラ、末口直径10.0cm～13.5cm、長さ91cm

(4) 植菌量：22個/本（末口直径の2倍）

(5) ホダ木管理：天地返し年2回

(6) 結果及び考察

表-1 気 象

項目 年	気 温 (°C)				湿 度 (%)		降水量 (mm)
	平 均	最 高	最 低	積 算	平 均	最 少	
55	14.2	32.2	-3.4	5,194	66	13	1,294
56	14.0	34.0	-6.0	5,117	64	15	1,343
57	14.9	32.0	-4.9	5,440	66	15	1,755
58	13.5	34.0	-5.0	4,936	64	17	1,328
59	13.6	37.0	-8.5	4,967	65	17	832
平 均	14.0	33.8	-5.6	5,131	65	15	1,310

ア. 発生状態について

発生量については、表-2、図-1及び図-2、表-3、図-3のとおりである。

5年間の総発生量では6L4>505>7H1>7H2>A75の順であった。なかでも、6L4及び505は発生状態が良好であった。反面、A75の発生状態は極めて不良であった。

最多発生年は7H1及び7H2が3年目、6L4及び505が4年目、A75のみ5年目であった。

年別では、1年目は6L4のみ発生がみられたが、他の4品種は全く発生がみられなかった。2年目は505>6L4>7H1>7H2の順であって、A75は前年同様に発生がみられなかった。3年目は6L4>505>7H1>7H2の順であって、とくに6L4及び505の発生状態が良好であったが、A75は前年同様全く発生がみられなかった。4年目は6L4>505>7H1>7H2>A75の順であって、発生傾向は前年とほとんど同様で、とくに6L4の発生状態が良好であった。5年目は505>6L4>7H2>7H1>A75の順であって、A75は最終年まで発生状態は不良であった。

月別では、1、2月は505のみ発生がみられた。3月は6L4>505>7H1の順であって、6L4及び505の発生状態が良好であった。4月は6L4>505>7H1>7H2>A75の順であって、発生傾向は前月同様であった。とくに、3、4月における6L4及び505の発生状態は良好で、6L4は全年発生量の88%、505は同じく52%に達した。しかし、A75はこの月以外には全く発生がみられなかった。5月は505>6L4>7H2>7H1の順であって、505以外の品種は発生状態がよくなかつ

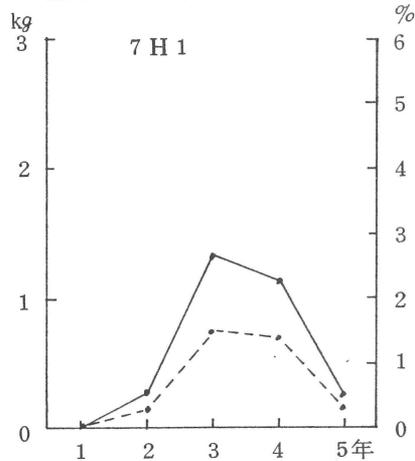
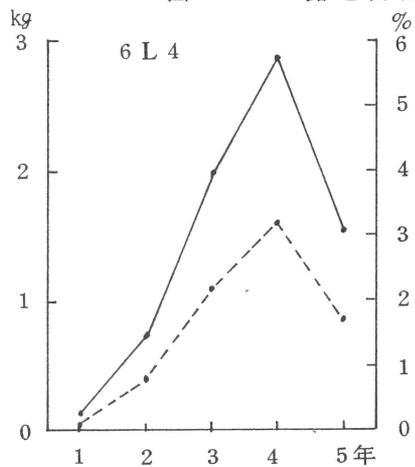
表-2

露地栽培試験における子実体発生量

供試ホダ木		発生年		第 1 年 目 昭和55年					第 2 年 目 昭和56年					第 3 年 目 昭和57年				
		品 種	本数 本	原木材積 m^3	原木重 量 kg	個数 個	重 量 g	g 個	g $0.1 m^3$	原木重 量率%	個数 個	重 量 g	g 個	g $0.1 m^3$	原木重 量率%	個数 個	重 量 g	g 個
6 L 4	20	0.2189	196	3	280	93	128	0.1	86	1580	18	722	0.8	283	4330	15	1978	2.2
7 H 1	20	0.2349	204						26	670	26	285	0.3	176	3150	18	1341	1.5
7 H 2	20	0.2186	204						21	430	20	197	0.2	138	2350	17	1075	1.2
5 0 5	20	0.2375	217						114	2860	25	1204	1.3	213	4010	19	1688	1.8
A 7 5	20	0.2114	192															

第 4 年 目 昭和58年					第 5 年 目 昭和59年					計					植 菌 年月日	走り子 発 生 年月日
個 数 個	重 量 g	g 個	g $0.1 m^3$	原 木 重量率%	個数 個	重 量 g	g 個	g $0.1 m^3$	原 木 重量率%	個数 個	重 量 g	g 個	g $0.1 m^3$	原 木 重量率%		
279	6340	23	2896	3.2	178	3400	19	1553	1.7	829	15930	19	7277	8.1	55. 4. 24	55.12. 2
130	2890	22	1230	1.4	29	580	20	247	0.3	361	7290	20	3103	3.6	55. 4. 24	56. 3. 30
23	330	14	151	0.2	33	810	25	371	0.4	215	3920	18	1793	1.9	55. 4. 24	56. 8. 7
286	5320	19	2240	2.5	324	4470	14	1882	2.1	937	16660	18	7015	7.7	55. 4. 24	56. 4. 10
3	50	17	24	0.0	8	140	18	66	0.1	11	190	17	90	0.1	55. 4. 24	58. 4. 8

図-1 露地栽培における品種別子実体発生量



凡例 $\text{kg} / 0.1 \text{ m}^2$
原木重量率 (%)

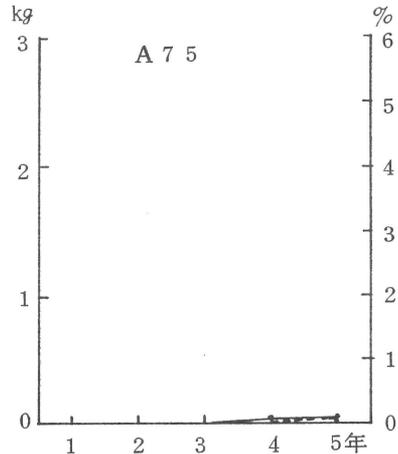
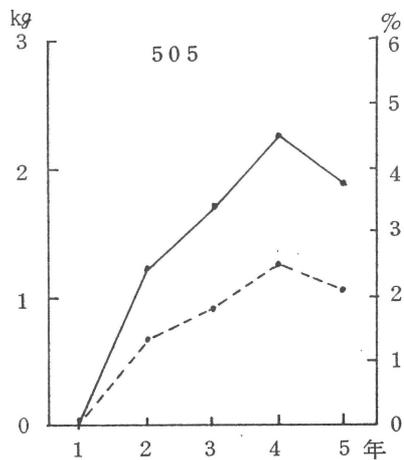
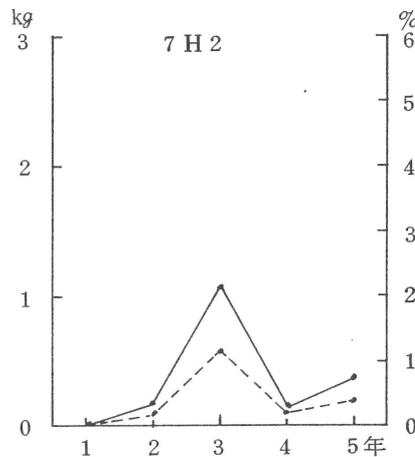


表-3

6 L 4

單位：g / 0.1 m³

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%	
55													128	128	1.8
56				146	92								484	722	9.9
57			1087	809	82									1978	27.2
58			1868	1628										2896	39.8
59				1476	73							4		1553	21.3
計			2955	3459	247							4	612	7277	
比率%			40.6	47.5	3.4							0.1	8.4		100.0

7 H 1

單位：g / 0.1 m³

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
55													0	0
56			17	8				260					285	9.2
57				30				941	370				1341	43.2
58				13				1136		81			1230	39.6
59				94	13				30	106	4		247	8.0
計			17	145	13			2337	400	187	4		3103	
比率%			0.6	4.7	0.4			75.3	12.9	6.0	0.1			100.0

7 H 2

單位：g / 0.1 m³

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
55													0	0
56								197					197	11.0
57								1075					1075	59.9
58				32				119					151	8.4
59				105	83					114	69		371	20.7
計				137	83			1391		114	69		1793	
比率%				7.6	4.6			77.6		6.4	3.8			100.0

5 0 5

單位：g / 0.1 m³

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
55													0	0
56				114	198	143			168		484	97	1204	17.2
57			728	488	194		67			17	194		1688	24.1
58	38	320	931	585	67						299		2240	31.9
59				825	451	211				34	362		1883	26.8
計	38	320	1659	2012	910	354	67		168	51	1339	97	7015	
比率%	0.5	4.6	23.6	28.7	13.0	5.0	1.0		2.4	0.7	19.1	1.4		100.0

A 7 5

單位：g / 0.1 m³

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
55													0	0
56													0	0
57													0	0
58				24									24	26.3
59				66									66	73.7
計				90									90	
比率%				100.0										100.0

図-2 露地栽培における子実体総発生量

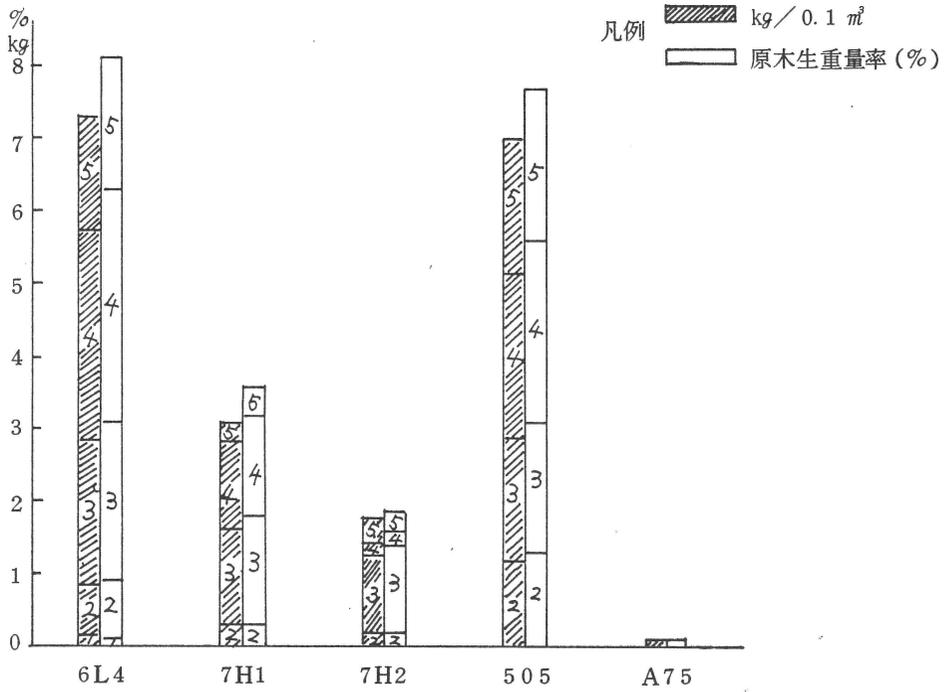
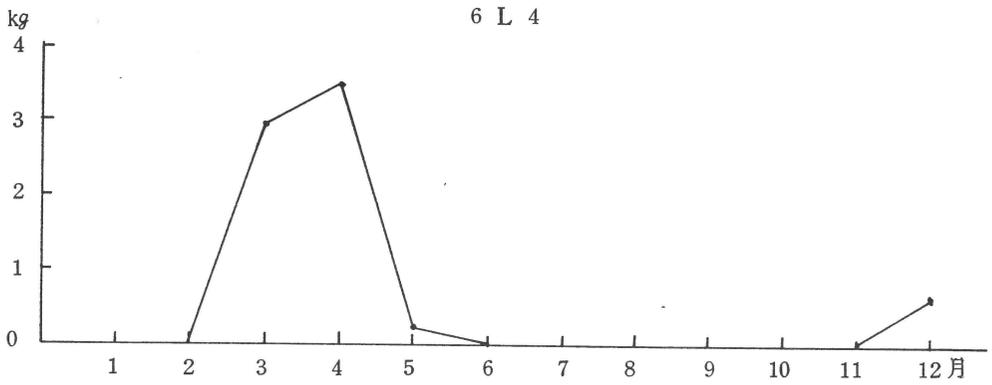
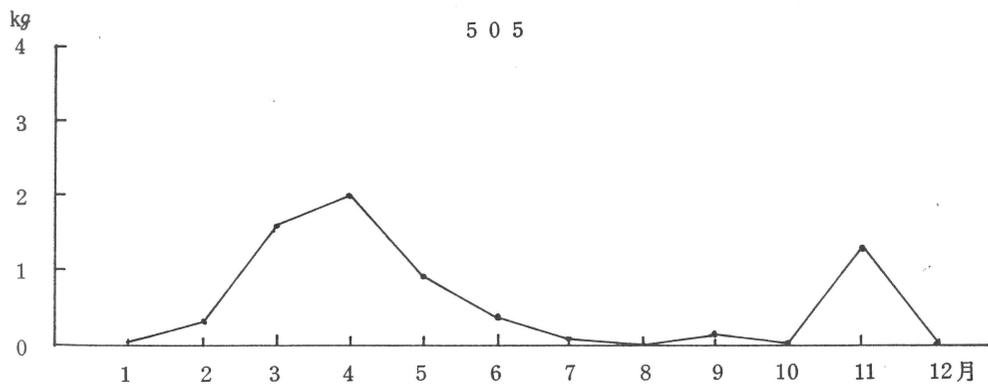
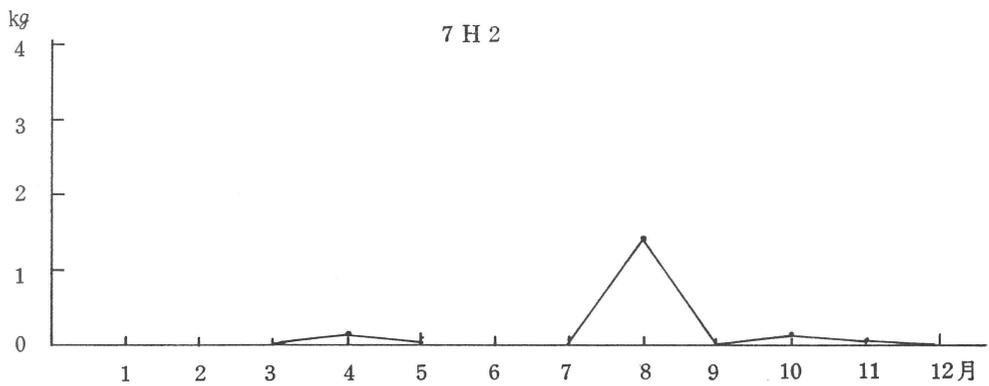
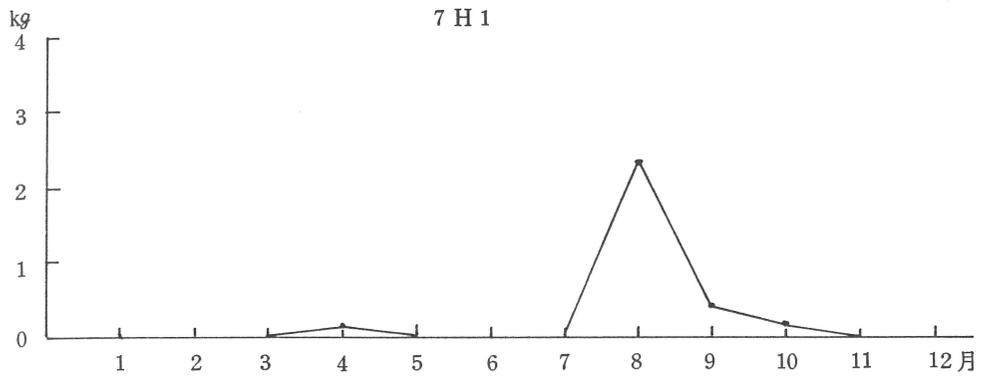
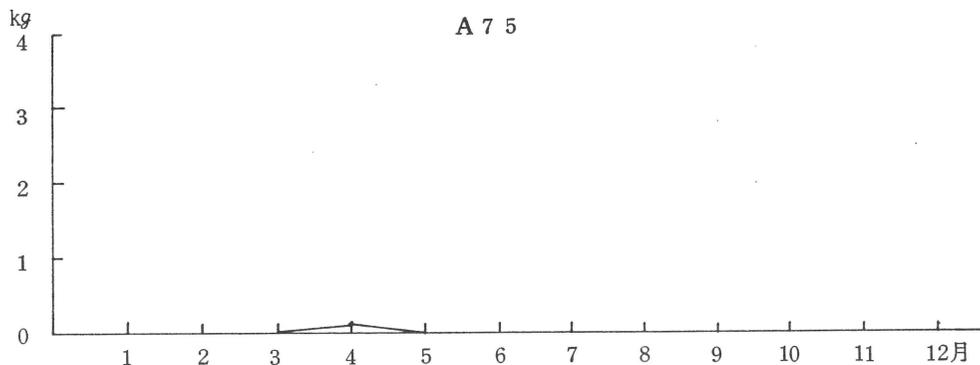


図-3 月別子実体発生量

単位: kg/0.1 m²







た。6月及び7月は505以外の品種は全く発生がみられなかった。8月は7H1>7H2の順であって、両品種とも全年発生量の75%に達した。9月は7H1>505の順であった。10月は7H1>7H2>505の順であった。11月は505>7H2>6L4>7H1の順であって、なかでも505の発生状態が良好であった。12月は6L4>505の順であった。

最多発生月は6L4、505、A75がいずれも4月、7H1、7H2はともに8月であった。

発生型はA75が春型、6L4及び505が春秋型、7H1及び7H2は秋春型であった。

イ. 形状、品質について

表-4 形状・品質調査表

項目 品種	形 状				色 沢	肉 質	奇 形 変 形	リンピ
	かさ径	かさ厚	柄 径	柄 長				
6L4	大 葉	厚 肉	中	短	濃 褐 色	中	な し	少
7H1	大 葉	厚 肉	中	中	褐 色	硬	な し	中
7H2	大 葉	厚 肉	中	中	褐 色	硬	な し	中
505	中 葉	中 肉	細	中	淡 褐 色	中	な し	多
A75	中 葉	薄 肉	細	中	淡 黄 褐 色	中	な し	少

ウ. 品種特性

(ア) 6 L 4

子実体の発生はほとんど3、4月に集中し、この2ヶ月だけで全年の88%に達し、秋発生は非常に少なく、従って、発生型は春秋型であるが春型に近い。また、植菌年の秋に走り子の発生もみられた。

年別発生量は、4年>3年>5年>2年>1年の順であって、3、4年目で全年の67%に達している。

品質は表-4のとおりであって、子実体はかさの色沢が暗いためいく分見劣りがする。従って、この品種は中温系中生種であって、露地栽培用として推奨できる。

(イ) 7 H 1、7 H 2

両品種ともに子実体の発生は8月に集中し、この月だけで全年の77%に達している。発生傾向は秋春型ではあるが、春発生が非常に少なく、むしろ夏秋型である。

年別発生量は、3、4年目が最も多く、全年の80%程度に達している。

品質は表-4のとおりであって、子実体は肉質硬目でしまり、7 H 2の方がかさの色沢いく分明るく良質である。

従って、この品種は高温系中生種であって、春秋型に比べ収量が少なく、露地栽培用としては推奨できない。

(ウ) 5 0 5

子実体の発生は8月を除いて全月にわたっているが、なかでも4月が良好で、全年の52%に達している。発生傾向は春が75%、秋が25%で、発生型は標準的な春秋型である。

年別発生量は、4年>5年>3年>2年の順で、3~5年で全年の83%に達し、しかも、年別にやゝ平均した発生状態がみられた。

品質は表-4のとおりであって、子実体は全般にリンピが明瞭で、かさの色沢明るく良質である。

従って、この品種は中温系中晩生種であって、露地栽培用として推奨できる。

(エ) A 7 5

この品種は菌の活着伸長は完全であるにも拘らず、子実体の発生は全年を通じて極端に少なく、しかも、4・5年目の4月のみの発生であって、他の月は全く発生がみられなかった。また、子実体の発生が少いにも拘らず、ホダ木の損傷甚しく5年目では完全腐朽していた。

品質は表-4のとおりであって、子実体は形状が全般に貧弱であった。

従って、この品種は高温系中晩生種であって、不時栽培（夏秋）では発生状態良好であるが、露地栽培用としては推奨できない。

2. 不時栽培試験（夏秋期栽培）

- (1) 供試品種：7H3、1303早生、436、440
- (2) 供試原木：コナラ、末口直径5.0cm～11.0cm、長さ91cm
- (3) 植菌期日：昭和57年4月19日、20日
- (4) 植菌量：16個/本（末口直径の2倍）
- (5) ホダ木管理：天地返し、年2回
- (6) 浸水：6～48時間、13～20℃（水温）、クーラー（ホンダHC-71R型、100V）使用
- (7) 芽出し操作：行わない。
- (8) 発生管理：フレーム全体をピアレスフィルムで遮光し、ホダ木は三角積み（高さ120cm）に展開した。
- (9) 結果及び考察

ホダ木は58年4回転、59年3回転計7回転した。

ア. 発生状態について

発生状態については、表-5、図-4及び図-5のとおりである。

7回転した総発生量では、1303早生>7H3>440>436の順であって、対象区の1303早生と比較するといずれも少なく、7H3はやゝ同じであったが、440は14%減、436は45%減であった。

発生経過を各回別にみると、1回目は7H3>1303早生>440>436の順であって、7H3以外の品種はいずれも発生量が少なかった。2回目は440>7H3>1303早生>436の順であって、436以外の品種は発生状態が良好で、いずれも200g/本以上であった。3回目は1303早生>7H3>440>436の順であって、とくに1303早生の発生状態が良好であった。4回目は440>1303早生>7H3>436の順であって、440と1303早生は発生量最大に達したが、436の発生状態はようやく100g/本以上になっていく分好転した。2年目に入り、5回目は436>7H3>440>1303早生の順であって、今回は前年まで発生不良であった436の発生が300g/本をこえ、発生量が最大になったが、前年発生量の多

表-5 不時栽培試験(夏秋期栽培)における子実体発生量

回轉数 期間				第 1 回 58. 5. 7 ~ 58. 5. 19					
供試ホダ木	本数本	原木材積 m^3	原木 生重量 kg	個数個	重量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原木 重量率 %
7H3	50	0.2746	242	598	9390	16	3420	188	3.9
1303 早生	40	0.2251	205	171	3620	21	1608	91	1.8
436	50	0.2893	260	33	760	23	263	15	0.3
440	50	0.2910	246	196	3070	16	1055	61	1.2

第 2 回 58. 6. 8 ~ 58. 6. 20						第 3 回 58. 7. 14 ~ 58. 7. 20					
個数個	重量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原木 重量率 %	個数個	重量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原木 重量率 %
720	10450	15	3806	209	4.3	393	4950	13	1803	99	2.0
502	8070	16	3585	202	3.9	773	10860	14	4825	272	5.3
49	1610	33	557	32	0.6	33	470	14	162	9	0.2
603	11490	19	3948	230	4.7	148	1790	12	615	36	0.7

第 4 回 58. 8. 18 ~ 58. 8. 25						第 5 回 59. 5. 21 ~ 59. 5. 30					
個数個	重量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原木 重量率 %	個数個	重量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原木 重量率 %
963	9970	10	3631	199	4.1	810	10930	13	3780	219	4.5
1489	12760	9	5669	319	6.2	681	7210	11	3203	180	3.5
264	6000	23	2074	120	2.3	637	15070	24	5209	301	5.8
1458	16430	11	5646	329	6.7	828	10350	13	3557	207	4.2

第 6 回 59. 7. 18 ~ 59. 7. 25						第 7 回 59. 8. 8 ~ 59. 8. 15					
個数 個	重 量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原 木 重量 率 %	個数 個	重 量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原 木 重量 率 %
19	180	9	66	4	0.0	197	1940	10	706	39	0.8
9	70	8	31	2	0.0	3	30	10	13	1	0.0
265	4370	16	1511	87	1.7	72	1240	17	429	25	0.5
41	350	9	120	7	0.1	59	730	12	251	15	0.3

計					
個数 個	重 量 g	g / 個	g / $0.1m^3$	g / 本	原 木 重量 率 %
3700	50510	14	18394	1010	20.9
3628	42620	12	18934	1066	20.8
1353	29520	22	10204	590	11.4
3333	44210	13	15192	884	18.0

表-6 年別発生量と比率

項目 品 種	1 年 目 第1回 ~ 第4回			2 年 目 第5回 ~ 第7回			計		
	重量 g	g / $0.1m^3$	比率 %	重量 g	g / $0.1m^3$	比率 %	重量 g	g / $0.1m^3$	比率 %
7H3	37460	13642	74.2	13050	4752	25.8	50510	18394	100.0
1303早生	35310	15686	82.9	7310	3247	17.1	42620	18934	100.0
436	8840	3056	29.9	20680	7148	70.1	29520	10204	100.0
440	32780	11265	74.1	11430	3928	25.9	44210	15192	100.0

図-4 不時栽培(夏栽培)における品種別子実発生量

●—● kg/0.1 m³
 凡例 — — — g/本
 ●—● 原木重量率(%)

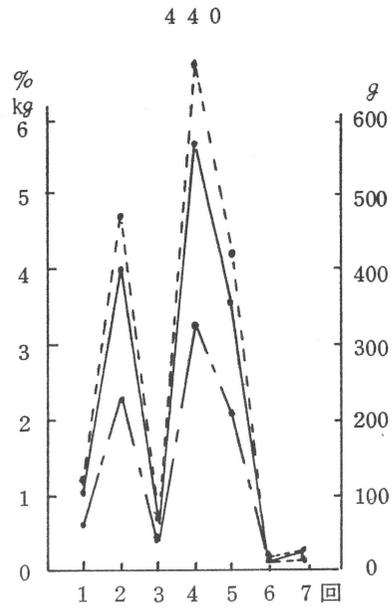
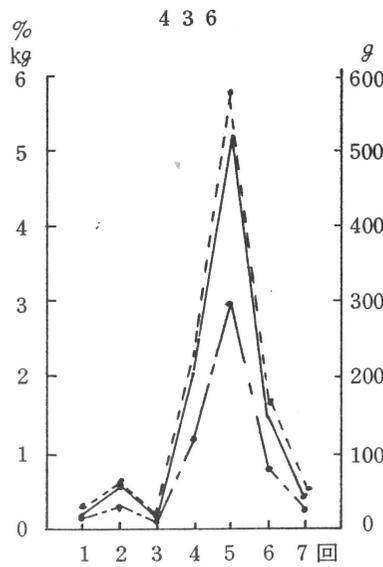
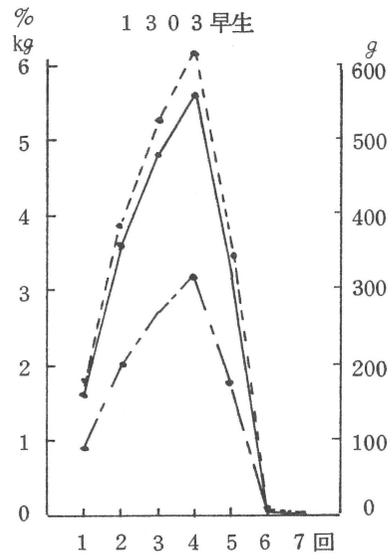
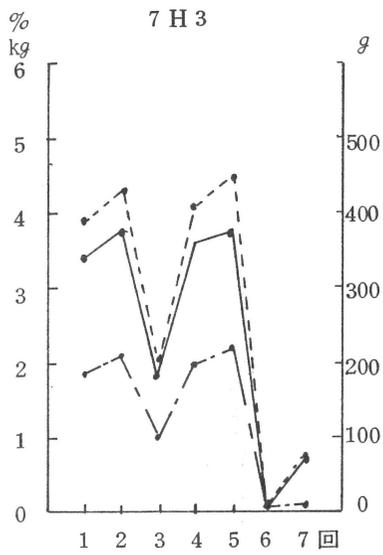
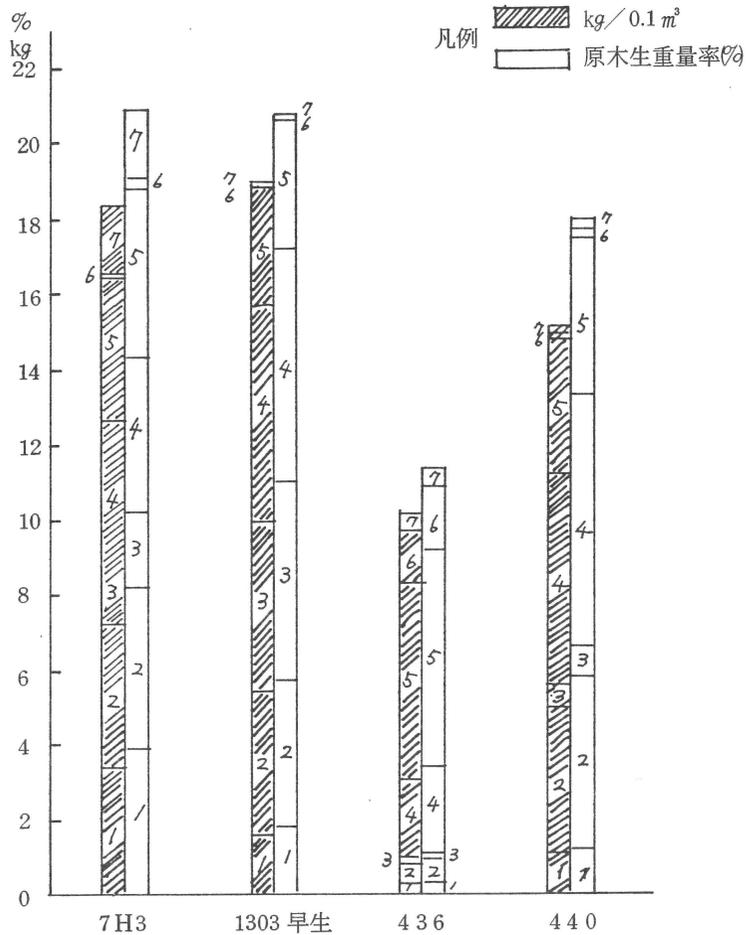


図-5 不時栽培（夏秋栽培）における子実体総発生量



かった1303早生は減少した。6、7回目は436、7H3以外の品種は発生状態が不良であった。

年別発生量とその比率は表-6のとおりである。1年目は4回転したが、その合計発生量は1303早生>7H3>440>436の順であった。これを原木生重量率で見ると、1303早生が83%、7H3及び440がそれぞれ74%、436は30%であった。2年目は前年に引続いて3回転したが、その合計発生量は436>440>7H3>1303早生の順であって、前年に比べその順序が逆転し、436以外の品種はいずれも発生不良であった。

イ. 形状、品質について

表-7 形状・品質調査表

項目 品種	形 状 (mm)				色 沢	肉 質	奇 形 変 形	リンピ
	かさ径	かさ厚	柄 径	柄 長				
7 H 3	53	15	12	48	茶褐色	中	なし	多
1303 早生	53	13	12	47	茶褐色	軟	なし	少
436	54	16	12	47	赤褐色	中	なし	中
440	52	18	13	39	淡褐色	中	なし	中

ウ. 品種特性

(ア) 7 H 3

総発生量は、1303早生(対象区)とほぼ同量であった。

各回別発生量は図-4のとおりであって、1303早生に比べ発生時期が早く、5月中旬で188g/本の発生量がみられ、1303早生の2倍に達した。また、5回目までやや均一な発生状態を示し、極端な集中発生はみられなかった。

品質は表-7のとおりであって、子実体は厚肉中葉で、とくにかさのリンピが明瞭で、柄が白色であるので、子実体全体が鮮明であった。しかし、夏期高温多湿時には肉質が柔らかくなるとともに子実体が貧弱化する傾向がみられた。

従って、7H3は今まで最も早生系といわれた1303早生より更に早生であって、高温系極早生種である。また、子実体の奇形変形もみられず、極端な集中発生や極端な肉質の柔らかさもなく、全般に良質であって、1303早生の代替として推奨できるが、実用上では夏期高温多湿時の発生を避け、5~6月、10月に行うよう留意する必要がある。

なお、7H3については、すでに「昭和58年度研究速報」(昭和59年2月)において、とりあえずその特性は発表済である。

(イ) 1303 早生

1303早生については、7H3の対象として供試した品種である。

その特性は、すでに「林業試験成績報告」第2号(昭和58年3月)において発表済であって、今回の試験でもその特性は前回と同様の傾向であって、早期多42性で、1年目の発生量が全年の80%以上に達する。しかし、品質において子実体全体が茶

褐色で、肉質が柔らかく、とくに夏期高温多湿時において著るしく、品質上の大きな欠点となっている。

(ウ) 436、440

436及び440については、すでに「昭和57年度研究速報」(昭和58年2月)及び「昭和58年度研究速報」(昭和59年2月)並びに「林業試験成績報告」第4号(昭和60年3月)において、その特性は発表済であるが、追跡調査のため再度供試したものである。

従って、今回の試験においてもその特性は前回同様であったので、前記報告をもって発表にかえる。

3. 不時栽培試験(冬期栽培)

- (1) 供試品種：7L5、904、B-519、252
- (2) 供試原木：コナラ、末口直径5.0cm～11.5cm、長さ91cm
- (3) 植菌期日：昭和57年4月19日
- (4) 植菌量：15個/本(末口直径の2倍)
- (5) ホダ木管理：天地返し年2回
- (6) 抑制操作：10～11月、2か月間イゲタ積み、トタン板覆い
- (7) 浸水：51～92時間
- (8) 芽出し操作：68～72時間、13～19℃、ファーマット(F-111、100V)使用
- (9) 発生管理：フレーム内三角積み(高さ120cm)に展開
- (10) 結果及び考察

ホダ木は58～59年に2回転、59～60年に2回転計4回転した。

ア. 発生状態について

発生状態については、表-8、図-6及び図-7のとおりである。

4回転した総発生量では、B-519>252>7L5>904の順であって、対象区の252と比較すると、B-519は1.3倍、7L5は1.1%少なかった。また、一方の対象区である904と比較すると、B-519は1.6倍、7L5は1.1倍であった。

発生経過を各回別にみると、1回目はB-519>7L5>252>904の順であって、904以外の品種の発生状態はいずれも良好で、とくにB-519の発生量は300g/本をこえた。2回目はB-519>252>7L5>904の順であって、

表-8 不時栽培試験(冬期栽培)における子実体発生量

回転数 期間				第 1 回 58. 11. 29 ~ 58. 12. 26					
供試ホダ木 品 種	本数 本	原木材積 m^3	原 木 生重量 kg	個数 個	重量 g	g 個	g 0.1 m^3	g 本	原 木 重量率 %
7 L 5	50	0.2575	215	880	12,160	14	4,722	243	5.7
9 0 4	40	0.2118	173	160	3,350	21	1,582	84	1.9
B-5 1 9	50	0.2595	221	994	15,840	16	6,104	317	7.2
2 5 2	50	0.2650	220	509	11,510	23	4,343	230	5.2

第 2 回 59. 1. 31 ~ 59. 3. 13						第 3 回 59. 12. 3 ~ 60. 1. 7					
個数 個	重量 g	g 個	g 0.1 m^3	g 本	原 木 重量率 %	個数 個	重量 g	g 個	g 0.1 m^3	g 本	原 木 重量率 %
984	9,510	10	3,693	190	4.4	356	3,720	10	1,445	74	1.7
283	6,380	23	3,012	160	3.7	364	5,910	16	2,790	148	3.4
1,229	14,730	12	5,676	295	6.7	378	4,760	13	1,834	95	2.2
645	12,500	19	4,717	250	5.7	195	2,940	15	1,109	59	1.3

第 4 回 60. 2. 9 ~ 60. 3. 22						計					
個数 個	重量 g	g 個	g 0.1 m^3	g 本	原 木 重量率 %	個数 個	重量 g	g 個	g 0.1 m^3	g 本	原 木 重量率 %
80	1,330	17	517	27	0.6	2,300	26,720	12	10,377	534	12.4
175	3,590	21	1,695	90	2.1	982	19,230	20	9,079	481	11.1
267	3,240	12	1,249	65	1.5	2,868	38,570	13	14,863	771	17.5
199	3,860	19	1,457	77	1.8	1,548	30,810	20	11,626	616	14.0

表-9 年別発生量と比率

項目 品種	1 年 目 第1回、第2回			2 年 目 第3回、第4回			計		
	重量 g	g 0.1m ³	比率 %	重量 g	g 0.1m ³	比率 %	重量 g	g 0.1m ³	比率 %
7 L 5	21,670	8,416	81.1	5,050	1,961	18.9	26,720	10,377	100.0
9 0 4	9,730	4,594	50.6	9,500	4,485	49.4	19,230	9,079	100.0
B-5 1 9	30,570	11,780	79.3	8,000	3,083	20.7	38,570	14,863	100.0
2 5 2	24,010	9,060	77.9	6,800	2,566	22.1	30,810	11,626	100.0

9 0 4 は前回に比べ発生量が2倍になったが、その状態はよくなかった。

2年目に入り、3回目は9 0 4 > B-5 1 9 > 7 L 5 > 2 5 2 の順であって、とくに、前年に発生不良の9 0 4 が良好であった。4回目は9 0 4 > 2 5 2 > B-5 1 9 > 7 L 5 の順であって、前回に比べ発生量は全般に減少した。

年別発生量とその比率は表-9のとおりであって、1年目は2回転したが、その合計発生量はB-5 1 9 > 2 5 2 > 7 L 5 > 9 0 4 の順であった。また、発生比率では7 L 5 > B-5 1 9 > 2 5 2 > 9 0 4 の順であった。2年目は前年に引続いて2回転したが、その合計発生量は9 0 4 > B-5 1 9 > 2 5 2 > 7 L 5 の順であった。また、発生比率では9 0 4 > 2 5 2 > B-5 1 9 > 7 L 5 の順であった。

従って、年別発生量の差は7 L 5 が最も大きく、次いでB-5 1 9、2 5 2 の順で、9 0 4 が最も小さかった。

イ. 形状、品質について

表-10 形状、品質調査表

項目 品種	形 状 (mm)				色 沢 肉 質		奇 形 変 形	リンビ
	かさ径	かさ厚	柄 径	柄 長				
7 L 5	51	14	13	32	濃褐色	軟	なし	少
9 0 4	59	19	15	34	濃褐色	中	なし	中
B-5 1 9	53	16	14	29	茶褐色	中	なし	中
2 5 2	57	16	15	37	茶褐色	中	なし	中

図-6 不時栽培（冬栽培）における品種別子実発生量

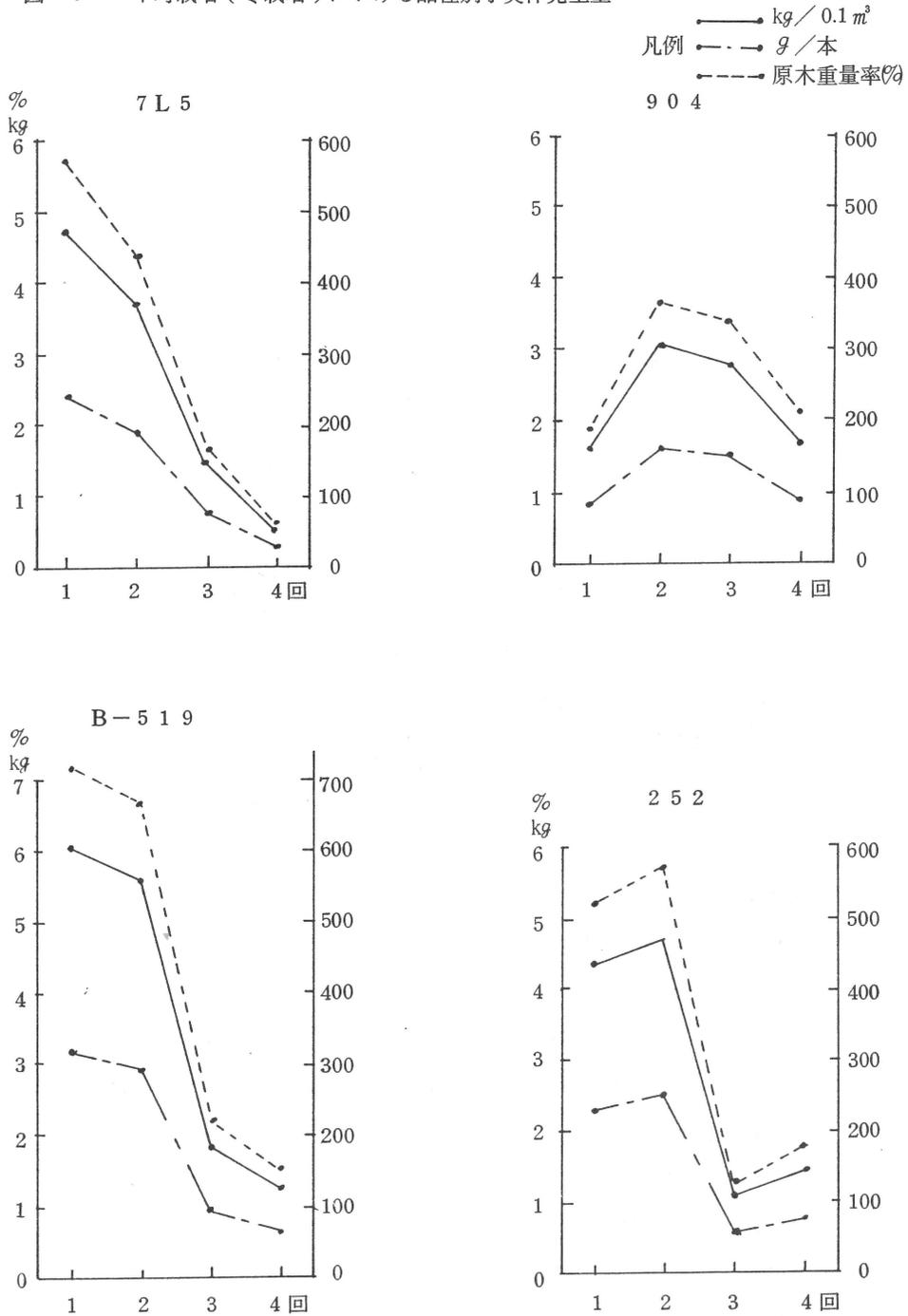
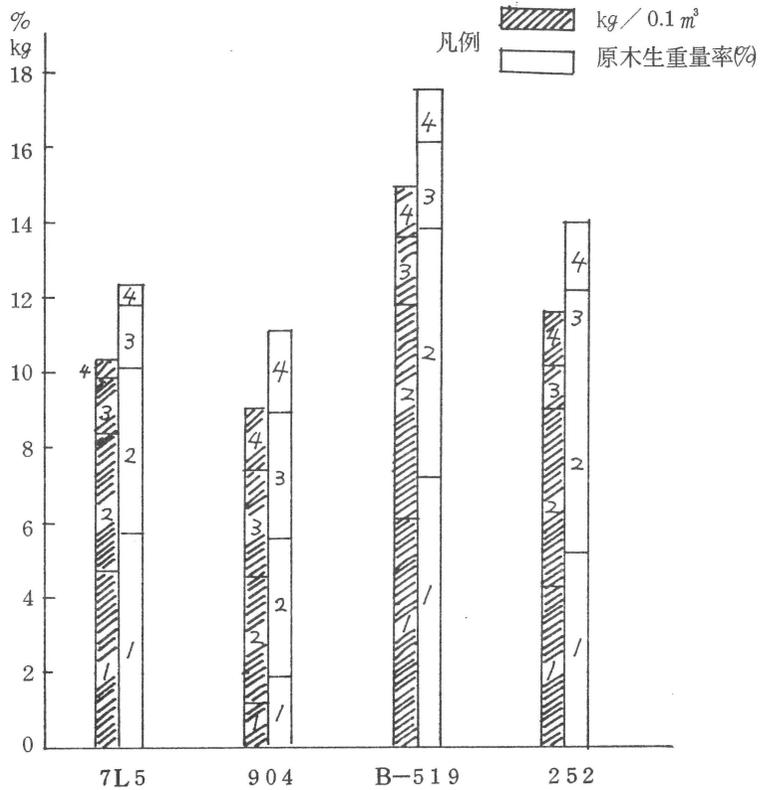


図7 不時栽培（冬栽培）における子実体総発生量



ウ. 品種特性について

(ア) 7L5、904（対象区）

7L5及び904については、すでに「林業試験成績報告」第4号（昭和60年3月）において、その特性は発表済であるが、追跡調査のため再度供試したものである。

従って、今回の試験においても、その特性は前回同様であったので、前記報告をもって発表にかえる。

(イ) B-519（256）

B-519については、最近新品種として市販されるようになって、品種が「256」と変更された。

総発生量は全品種中最も多く、252（対象区）の1.3倍、最も少ない904（対象区）の1.6倍であった。また、原木生重量率も18%弱に達するとともに、1年目の発生量も80%であった。

各回別の発生量は図-6のとおりであって、発生傾向は252より早期に発生し、むしろ、7L5の発生型に似ている。

従って、B-519は中低温系早生種であって、252よりいく分早く、植菌後2夏経過後の10月頃から不時発生が十分可能である。

子実体は全般に厚肉中葉で、柄が短かく、かさの色沢も明るく良質であって、子実体は252によく似ているが、欠点としてはいく分小形であった。

(ウ) 252 (対象区)

252はB-519の対象区として供試した品種であって、すでに「昭和55年度研究速報」(昭和56年2月)及び「林業試験成績報告」第3号(昭和59年3月)において、その特性は発表済である。

従って、今回の試験においてもその特性は前回と同様であったので、前記報告をもって発表にかえる。

引用並びに参考文献

- 1) 清水高志、昭和56年、シイタケ新品種の特性について、東京都農業試験場昭和55年度研究速報
- 2) 清水高志、昭和58年、シイタケ新品種の特性について、東京都農業試験場昭和57年度研究速報
- 3) 清水高志、昭和59年、シイタケ新品種の特性について、東京都農業試験場昭和58年度研究速報
- 4) 清水高志、昭和58年、シイタケ品種選抜試験、東京都農業試験場林業分場林業試験成績報告第2号
- 5) 清水高志、昭和59年、シイタケ品種選抜試験、東京都農業試験場林業分場林業試験成績報告第3号
- 6) 清水高志、昭和60年、シイタケ品種選抜試験、東京都農業試験場林業分場林業試験成績報告第4号
- 7) 東京管区气象台、昭和55年～昭和59年、東京都気象年報